

## 1・17のつどいの ボランティア

1月17日の早朝、三宮の東遊園地で21回目となる「阪神淡路大震災1・17のつどい」が開催されました。



その実施にあたり、毎年ボランティアの募集がされています。本校の硬式野球部は、平成15年よりこのボランティアに参加してくれています。今年度は、「過去を悲しむだけでなく、未来につ

なげていく日にしたい」との思いで開催され、1・17の上に「未来」の文字が点灯されました。部員たちは、前日夕方から、竹灯籠の竹筒を並べ、



今回の「つどい」の回数と同数の雪地藏を作る作業をしていただきました。



部員だけでなく、硬式野球部の保護者の皆様も大

勢ご参加いただきました。硬式野球部は、朝練習がオフの時には、通学路の清掃をしてきています。

また、トレーニンングでお世話になる諏訪山神社の清掃、さらには初詣の準備のお手伝いなど、硬式野球部は、地域貢献を他の人のためだけでなく、自分自身の成長の糧にしたという思いで、ボランティア活動を続けています。

## ちよつと一言

今回は、多く紙面を使って伝えたいので、掲載場所を変更します。

「為末 大さん」を知っていますか？知っているのは、陸上競技をやっている人くらいでしょうか。

彼は世界選手権の400m障害で二度の銅メダル、五輪は3大会連続出場、現在でも日本記録保持者です。

彼が18歳のときに、大きな転機が訪れます。彼は陸上の花形種目の

100m選手でした。それが全国インターハイ出場直前に監督から出場を断念させられています。それは肉離れを繰り返す彼の体を思っていたことの結果400mで優勝していたのですが、専門種目を変更することについて、なかなか受け入れることができなかったようです。しかし、その後世界で活躍することを考えて、400m障害に専門種目を変更して、成功していきます。

彼が18歳の年は、日本人アスリートが世界で活躍した年でもあったのです。テニスのウインブルドで日本人初ベスト4の伊達公子、大リーグで野茂英雄投手がノーヒットノーラン、有森裕子が五輪女子マラソンで銅メダル、サッカーがブラジルに勝利した「マイアミの奇跡」などがあった年でした。これらの出来事に彼は大きな刺激を受け、目標を世界に向け種目変更をし

ていったのです。「危険であることを認識しているうちは安全である」が彼の座右の銘です。それを実践するために必要なものは、困難と失敗だといっています。今までの専門に見切りをつけ、安全を選ばず、厳しい環境に身をおき挑戦していくことが、成長につながり、そして素晴らしい結果を生み出していくのです。

一度決めた人生設計は、変えてはならぬと、思い込みにがちです。でも、目的のために手段を変えることは、「諦め」ではないのです。見極めは、目標を達成する可能性や工夫する余地があるかどうかだといっています。

やはり、挑戦する勇気が必要なのですね。

大きな刺激を受け、目標を世界に向け種目変更をし

